

ある週の履修実例
(Aさんの場合)

看護学研究法では研究の方法について、基本から学び、今まで自分が臨床で行ってきた研究の改善点が見出せたところがよかったです。

看護政策論では、現在ある看護政策について1つのテーマを2人1組で調べ、発表、ディスカッションをしました。普段病院で働いていると、政策的な視点を持つ機会はなかったので、新しい視点を持つことができるようになりました。

	月	火	水	木	金	土	日
朝					準夜勤務 2時まで		
I限目 8:50~10:20	日勤	看護学研究法	日勤	休息	休息	休息	日勤
II限目 10:30~12:00							
昼							
III限目 12:50~14:20		看護政策論		自己学習	自己学習 1時間	自己学習 3時間	
IV限目 14:30~16:00							
V限目 16:10~17:40		老年看護学 特論I		準夜勤務	大学図書館 で調べもの	休息	
VI限目 17:50~19:20	老年看護学 特論II						
夜	自己学習 2時間	自己学習 1時間	自己学習 2時間		自己学習 1時間	自己学習 1時間	自己学習 1時間

本学の大学院科目は、社会人学生が多く、長期履修生が多いことから、週2~3日の通学(基本は火土もしくは金、日に開講することも)で履修が可能のように調整されています。

Aさん(長期履修生, 公立病院勤務)の感想

時間の使い方ですが、仕事は正規職員で働きながら、大学院に通っています。職場には、講義のある曜日が休みになるように、都合してもらっています。また、月に3~4日ほど授業のために、年休を取らせてもらっています。原則、自分の休みを使って通うことになっているので、仕事の休みの日が大学院のため、以前と比べて、仕事も学校も全くない休日の数は極端に減りました。気分転換の時間も必要なので、出かけることもありますが、自己学習時間とリフレッシュの時間のメリハリをつけることが大切と感じています。

大学院関連の時間	仕事関連の時間
大学院講義	仕事
自己学習	睡眠・休息

老年看護学の授業では、老人の置かれている社会的背景や法律、介護・福祉との連携、老人をアセスメントするためのツールなど様々なことを学んでいます。講師には、臨床の第一線で働いている方が来られることもあり、病院以外の場所での老人看護の在り方について生の声を聴けることが新鮮です。

